第3467図

はなきりん

Euphorbia Millii *Ch. des Moulins*
(=E. splendens *Bojer*)

マダガスカル島原産の有刺の小灌木で、観賞用として温室などに培養される。高さ50–90cm許、根元から太い枝を分って屈曲し、枝には長さ2cm内外の鋭刺を密生する。葉は少数、小形、長さ2–4cm許、短小な側枝の上に集って着き、倒卵形、鋭頭、基部楔形、無毛で表面光沢がある。夏日、枝端から早落性の苞を有する紅色の花序枝を出して、繖形状に開花する。一見1花と見えるものは1花序であり、これに広卵形微凸頭の苞葉2個を相対して生じ、長さ1cm内外、鮮赤色を呈する。苞葉の間に鐘状小総苞があり、その壁上に腎形腺体5個があり、内に1雄芯よりなる雄花の群と、これに伴う剪裂した鱗片状の小苞、及び3花柱を有する雌花を有する。花柱は往々不規則に深裂して、数を増すことがある。

第3468図

おおにしきそう

Euphorbia maculata *L.*
(=Chamaesyce maculata *Small*;
E. hypericifolia auct. japon.non *L.*)

北米原産にて本邦の都会地附近に野生化した1年生草本。茎は直立し、高さ20–30cm許、小枝は一側に毛があり、幼部には全体に短毛を有し、淡紅色を帯び、上方で疎に分枝して全体は稍水平に開き、枝は屈曲する。葉は短柄を有して、対生し、長楕円形、裏面粉白で長さ1.5cm許あり、上半に細鋸歯を有し、先端鈍形又は稍尖り、基部は円形、左右著しく不同形を呈する。夏日、各枝の頂に聚繖花序を出し、小形の苞花を綴り、紅色を呈する。総苞は倒円錐形、裂片は披針形、附属の腺体は円形にて凹面あり、附属裂片はよく発達する。蒴は3胞をなし、平滑無毛である。コニシキソウの学名は従来 E. maculata *L.* とされていたが、E. supina *Rafin.* が正しい。

第3469図

しょうじょうぼく

Euphorbia pulcherrima *Willd.*
(=Poinsettia pulcherrima *Graham*)

メキシコ原産の常緑灌木で、温室で栽培され、冬期の切花としてもてはやされ、花戸ではポインセチアの名で知られる。疎に枝を分ち、小枝はやや太く、熱帯では高さ2–3mに達する。葉は有柄、深緑色をしており互生、広披針形で先端は尖鋭し、基部は楔形で、葉縁に波状或は鋸歯状の浅裂が2–3個ある。枝端の葉は節間がつまって輪生状をなし、狭披針形、全縁で濃朱紅色を呈する。平頭をなして一見1花の如く見える花序数個乃至10数個を着ける。花序を包む小総苞は狭鐘状をなし、緑黄色を呈し、その側壁に大形の腺体を有する。小総苞中に1雄芯からなる雄花数個と、1雌芯からなる雌花1個を有し、雌花の梗は長く苞外に超出する。

第3470図

おおばべにがしわ

Alchornea trewioides *Mueller Arg.*
(=Stipellaria trewioides *Benth.*)

支那東南地方原産の落葉灌木で、時に庭園に栽植される。雌雄同株、時には雌雄枝を異にすることがある。高さ1–3m、枝は疎で稍太く、葉は互生して、長柄を具え、嫩葉は暗紅色を呈し、春時は殊に美観を呈する。成葉は濶大な円形で、短鋭尖頭を有し、葉底は微凹状円形或は多少広心臓形で、葉辺に低鋸歯があり、葉質は薄く、上面は緑色、下面は白緑色、細脈まで隆起して細毛を有する。葉柄の葉に接する所に細毛を帯びた2個の針状突起を具え、基には針状の托葉がある。雄花序は短く、旧枝の葉腋から出で、新葉に先立って展開し、花は白色、車状に射出する雄芯を通常8個有する。

第3471図

やまひはつ

Antidesma japonicum *Sieb. et Zucc.*

四国、九州の暖地及び琉球、台湾に生ずる常緑の小灌木で、多く細枝を分ち、若枝、花序、葉柄、葉の下面脈上に短毛がある。葉は薄い革質で互生し、狭楕円形、乃至広倒披針形、全縁で先端鋭尖し、鈍端、基部やや鈍形、往々歪形をなし、長さ3–8cm。雌雄異株で、夏日長さ3–4cmの総状花序を腋出或は頂生する。花は細小無弁で、稍密に着き雄花の萼片は普通4裂、時に3–5裂し、裂片は3角状卵形、長い花糸を有する4個の雄芯と、時に退化した雌芯とがある。雌花は3–4個の萼裂片を有し、子房は狭卵形、花柱は短かく、反曲する3–4個の柱頭を冠する。核果は歪楕円形で紅熟し、長さ4.5mm許ある。

第3472図

なんきんはぜ

Triadica sebifera *Small*
(=Sapium sebiferum *Roxb.*)

台湾及び支那原産の落葉喬木で、高さ10mに達する。我国では時に庭園に栽植され、九州の一部では自生状態を呈している。葉は細長な柄を有して互生し、黄緑色、菱状卵形で、先端は急に尾状を呈し、全縁、無毛、長さ4–7cm、葉柄と葉身の間、上面に2個の腺体を有する。夏日、若枝の先端に長さ5–10cmの総状花序を直立して生じ、上部に多数の雄花を、下部に少数の雌花を開く。雄花の萼片は3裂、3雄芯を有し、雌花は側方に腺体のある小苞に包まれ、萼片の一部は退化し、1雌芯があり、高く超出して先端3岐する花柱を有する。果実は3胞をなす扁球形で3溝があり、開裂して3個の種子を出す。